

令和6年度 群馬大学共同教育学部附属特別支援学校 研究実践報告

自分の思いや考えをもち、社会とかかわる児童生徒の育成（1年次） ～子どもの表出から思いや考えを見取り、支援に生かす授業実践～

1. はじめに

本校では、「健康で、人と調和でき、自ら豊かな生活を築く能力を身に付け、よりよい自立と社会参加ができる児童生徒の育成」を教育目標に掲げており、主体的に社会に参加できるように、自分で考え、自分で決定し、自分で行動する児童生徒の育成を目指している。令和6年度からは、3年計画で児童生徒の思いや考えに焦点を当てた研究に取り組むことにした。研究をするにあたっては、目に見えない子どもの内面を捉え、支援を改善することの難しさが課題としてあると考えている。そこで、1年次では、「子どもの表出から思いや考えを見取り、支援に生かす授業実践」を副主題として、思いや考えの見取りを中心として検討することとした。

2. 研究の目的

- 1年次の研究に取り組むにあたって、以下のように目的を設定した。
- ・授業の中での子どもの姿から、思いや考えを推察する際の留意点を明らかにすること。
 - ・推察した思いや考えを支援に生かす際の留意点を明らかにすること。

3. 実践について

年間を通して、子どもの思いや考えについて授業実践をもとに検討を重ねてきた。以下に、校内研究授業及び公開研究会において、授業研究会が実施された授業を示す。また、実践事例として、別ページに公開研究会における中学部 国語科の授業実践を示す。

令和6年6月21日（金）校内研究授業

（小学部：図画工作科，高等部：音楽科）

令和6年11月8日（金）公開研究会

（一般授業：小学部：体育科，中学部：音楽科，高等部：保健体育科）

（提案授業：小学部：音楽科，中学部：国語科，高等部：国語科）

令和7年2月13日（木）校内研究授業（小学部：算数科）

令和7年2月20日（木）校内研究授業（高等部：美術科）

※推察した思いや考えを支援に生かすために、「支援記録シート」を用意し、記録を取りながら実践を行った。支援記録シートの書式は、実践を重ねながら修正した。

4. 本年度の成果と課題

- ◆成果① 支援記録シートを記入することで、子どもの思いや考えを推察しやすくなり、支援改善につながった。

今回の研究にあたって使用された支援記録シートを図1，図2に示す。6月の時点での支援記録シートでは、「教師の設定した活動場面や状況」，「子どもの表出や反応」，「教師の見取った思いや

考え」,「見取りを踏まえた支援」の項目を設定した。図1の支援記録シートを使用することによって,子どもの表出から,思いや考えを推察しながら支援を考えることができた。しかし,「子どもの思いや考え」の流れやつながりが見えにくく,支援を考える際に難しさがあつた。

そこで,11月の支援記録シートでは,図2のように,時系列で記述できるようにすることで,子どもの思いや考えの流れやつながりを捉えやすくした。そうすることで,適切な支援のタイミングや指導する内容の展開を考えながら,支援を改善することができた。

思いや考えをもとにした支援記録シート

高等部 3学年 Tさん

教科／合わせた(音楽)

題材の目標

音の重なりから曲の雰囲気の違いを感じ取り,イメージを膨らませながら新しい動きを試す中で,体の動かし方を工夫することができる。

(6月18日)

教師の設定した活動場面や状況	曲シートを見ながら『星条旗よ永遠なれ』を聴いた後に,曲のイメージを共有し,体の動きで表現する。
子どもの表出や反応	・演奏されている楽器を確認する際に,「シンバルの音が聴こえた」とシンバルの写真を選び,曲シートに貼った。 ・ピッコロが演奏する場面では,「鳥の鳴き声のように聴こえる」と答えた。 ・強くなる場面で友達がジャンプする姿を見て,ジャンプをした。
教師の見取った思いや考え(理由)	・聴き慣れているシンバルの音がよく聴こえる(複数の楽器が演奏されている一音の重なりまではつながっていない)。 ・友達がジャンプをして表現しているからリボンの動きだけでなくジャンプでも表せるかもしれない。この表現方法もよいかな。
見取りを踏まえた支援	・生徒が聴こえた楽器の音を大切にするために,実際に演奏されている楽器は伝えずに,曲を聴くようにする。生徒から聴こえたと出てきた楽器の写真や名前を曲シートに記入していき,演奏されている楽器が多いと,音が重なって聴こえることにつなげて考えることができるようにする。

図1. 6月の校内研究授業で使用された支援記録シート

支援記録シート

記入者()

対象児童生徒() ※イニシャルまたはアルファベットで。 学部 (小・**中**・高)

教科・領域 / 単元・題材名 (数学 / はかって比べよう(長さ))

単元・題材の目標(計器を使って,長さを比較することができる。)

日付 月 日 ()

子どもの様子	思い 【感想・気持ち・感情】【興味】 【欲求】【期待感】	考え 【認識・イメージ】【判断・選択】 【比較】【疑問】【予想】【理解】	支援(言葉掛け,かかわり方,教材,環境構成など)
算数の教科書をもってきた。	教科書をはかってみよう。		「測ってみよう」と言葉を掛けた。
「教えてください!」	先生と一緒にやりたいな。 一緒なら早くできそうだ。	マスを数えよう。	測る手順表を指差す。
マス目のものさしを当てるが,端からずれている。			手を添えて,端を確認した。
ずれていても数え始める。 マス目を数えるが,とばして数えることがある。	数えるの楽しいな。 早く次をやりたいな。		ずれを直して,一緒に読む。
プリントに数を書いて次へ。	次はなにを測ろうかな。		
●目標にかかわる子どもの姿(よかった姿・課題のある姿) ものの長さを測ろうとする気持ちはあるが,本の端と物差しとの端がずれていても数え始めていた。			
●次時への支援 測り始める位置に目印を付けて,どこから測ればよいか分かりやすいようにする。			

図2. 11月の公開研究会の授業で使用された支援記録シート

◆成果② 子どもの内面を「思い」と「考え」に分けて推察することで、子どもの主体性と認知に着目することができた。

6月に実施された校内研究授業の子どもの姿から授業における子どもの内面について検討した。

子どもの「思い」は、活動に対する動機や活動に向かうエネルギーであると捉えた。「思い」を推察することで、子どもが興味をもって取り組んでいるか、自分でやりたいか、友達とやりたいかなどを確認しながら、かかわり方を工夫することができた。

また、子どもの「考え」は、学びの過程における認知機能であると捉えた。「考え」を推察することで、子どもがどのようなイメージをもっているか、どんな点に疑問をもっているか、などを確認しながら、提示する教材や選択肢、発問等を工夫することができた。

「思い」や「考え」について、表1、2のように整理した。子どもの「思い」と「考え」を区別することで「思い」に対する支援、「考え」に対する支援をそれぞれ考えることができたり、子どもの「考え」を時系列に沿って推察することで、各授業の目標に迫っているかをより具体的に推察したりしながら、支援を改善することができた。

表1. 今年度の実践により推察された子どもの「思い」

項目	内容
欲求	やってみたい、見てほしい など。
期待感	面白そう、楽しそう、自分もできそう など。
興味	何だろう？ 気になるな など。
感想、気持ち、感情	気持ちいいな、楽しいな、不安だな、好きだ など。

表2. 今年度の実践により推察された子どもの「考え」

項目	内容
認識、イメージ	〇〇の形だな、友達は〇〇しているな、〇〇みたいだな など
比較	〇〇の方が、より□□だな。
判断	〇〇をしてみよう。
選択	(選択肢の中から) 〇〇を使ってみよう。
疑問	どうなった？このやり方でいいかな？
予想	〇〇すると、□□かな。
理解	〇〇すれば、△△なんだ。

◆成果③ 「根拠」となる情報を踏まえることで、客観性をもって子どもの表出に着目したり、思いや考えを推察したりすることができた。

11月の公開研究会の授業を振り返る中で、子どもの表出に着目したり、思いや考えを推察したりする際に、授業者の主観が入りがちになることが課題として挙げられた。そこで、なぜその表出に着目したのか、なぜそのように子どもの思いや考えを推察したのか、といった理由となる「根拠」を踏まえる必要があると考えた。今年度の実践を改めて振り返り、思いや考えを推察する上で参考にした情報を整理し、表3のようにまとめた。2月の校内研究授業は、この表を参考にすることで、「根拠」の情報を踏まえ、教員間でやりとりをしながら、思いや考えを推察し、支援記録シートに記入することができた。

表 3. 表出から思いや考えを推察する際に、「根拠」として参考にした情報

項目	内容
実態	家庭や学校等の普段の様子
特性	こだわり，記憶が苦手，常同行動，独特な捉え方などの障害特性
学習経験	個別の教育支援計画や個別の指導計画等から
最近の興味・関心	最近のヒトやモノ，コトへの興味・関心など。
前時までの様子	どのような状況(環境構成，教材，教師の支援，友達とのかかわりなど)
(本時の)前後の様子	で，どのような姿が見られたか。印象的だった場面など。

○課題

「子どもの表出から思いや考えを見取り，支援に生かす授業実践」として，これまで子どもの思いや考えに着目し，検討を重ねてきた。特に，子どもの思いや考えを見取ることについては，考察が深まりつつある。一方で，それらをどのように支援に生かすかについては，事例の少なさやそれぞれの子どもによる要素が大きいため研究として整理することが難しかった。しかしながら，今年度の授業実践の中で，子どもの思いや考えに基づいた様々な支援の工夫が見られた。これらの支援の工夫について，参考資料を巻末に示す。

○今後に向けて

今年度の研究をさらに進め，子どもが思いや考えを巡らせながら活動に取り組むための支援や教材教具，環境等について検討していきたい。また，「子どもの思いや考え」と「社会とのかかわり」についての検討を深めていきたい。

実践例

「じっくり 読んで あらわそう」

中学部 国語科【読むこと】 学習集団 中学部1年生 6名

〇概要

本単元は、文や物語を3人ずつのグループに分かれて読み、①文や単語の内容と合うイラストを選ぶ、②イラストを選んだり並べたりして絵に表す、③それぞれの絵を見合い確かめながら、グループごとに文や物語の場面を作るという活動を行った。単元の半ばから後半にかけては、『きつねのおきやくさま』（あまんきみこ作）を題材として、登場人物や登場人物の動作に着目しながら読み進め、イラストを組み合わせて場面を表す学習活動を行った。

〇対象生徒Aさんの単元の目標

自ら文を読み、主語と動作を表す単語を見付け、意味に合うイラストを選んだり、動かしたりすることができる。

〇授業の様子

Aさんは、「きつね」という言葉を見付けると、すぐに主語に丸印を付けることができた。しかし、「ひよこ」などの目的語があると、主語と混同し、きつねが何をしたのか分からなくなり、読むことをあきらめてしまう様子が見られた。また、図3の赤枠部分で示したように、Aさんが、「あひるとひよこがはなす」の文を読んだあと、イラストを使って場面をつくる際に、あひるとひよこをホワイトボードの別々の場所に貼る様子が見られた。

支援記録シート				
記入者（ 島田大樹 ）				
対象児童生徒（ A ）※イニシャルまたはアルファベットで。 学部 （ 中 ）				
教科・領域 / 単元・題材名 （ 国語・読むこと / じっくり読んであらわそう ）				
単元・題材の目標（ 自ら文を読み、主語と動作を表す単語を見付け、意味に合うイラストを選んだり、動かしたりすることができる。 ）				
日付 10月 31日（ 木 ）				
子どもの様子	思い 【感想・気持ち・感情】【興味】 【欲求】【期待感】	考え 【認識・イメージ】【判断・選択】 【比較】【疑問】【予想】【理解】	支援（言葉掛け、かかわり方、教材、環境構成など）	
「みる」等の複数の述語を読む。	これは何だろう。		述語のカードを貼ったボードを提示する。	
複数のきつねの動き（述語）別のイラストから、イラストを選んで、「はなす」の下に貼る。	きつねがたくさんいるなあ。貼ってみたいな。	きつねのイラストに吹き出しがあるから、このきつねが「はなす」のきつねだな。	複数のきつねの動き（述語）別のイラストを提示し、「はなしているのはどれですか」と尋ねる。	
見ているきつねのイラストの下に、「みる」の単語を貼る。	こっちもやってみよう。このイラストは何だろう。	何かを見ているな。「みる」の単語のカードを下に貼ろう。	「そうですね。歩いているきつねですね」と言葉掛けをする。	
「あひるとひよこがはなす」の文を読み、それぞれ別々の位置にイラストを貼る。	あひるとひよこはわかったけど、だれが何しているのかわからないなあ。	あひるは木のところに貼ろう。ひよこは（きつねの）家に行ってもほしいから背景の端に貼ろう。	「あひるとひよこ、話してみよう」と促したり、イラストを使って動作の手本を示したりする。	
●目標にかかわる子どもの姿（よかった姿・課題のある姿） きつねの動き（述語）別のイラストと単語のカードを見ながら、それらを組み合わせることができた。 主語が並列の際には、取り扱う情報量が多く、「誰が（主語）」を選ぶことはできたが、述語を選ぶ				
●次時への支援 登場する動物の動き（述語）別のイラストを提示する。 提示された文の単語の意味を理解し、文の内容を捉えることができるように、主語と述語で完結する文を提示する。				

図3. 国語の授業における支援記録シート

Aさんの内面を推察すると、青枠で示した「見ているきつね」のイラストの下に「みる」の単語を貼った様子から、Aさんは、「(きつねは)何かを見ているな。『みる』の単語のカードを下に貼ろう」と判断していると推察され、イラストや単語の内容を理解して選んでいることが確認できた。

一方で、赤枠で示したような、「あひるとひよこがはなす」の文を読んだあと、あひるとひよこをホワイトボードの別々の場所に貼った際には、「分からない」という思いや、「あひるは木のところに貼ろう。ひよこは端に貼ろう」など、文の表す意味を捉えきれていないことが推察された。その背景には、主語が並列になると、Aさんにとって情報量が多くなってしまうため、混乱してしまうことが考えられた。

そこで、次時からは、「きつねは～した」のように、1文に主語と述語は1つずつにしていこうことにした。さらに、「きつねが何をしたのか」に着目できるように、「みる」「ねる」「はなす」など、動きを表すきつねのイラストを用意し、文中の述語に合うきつねのイラストを選べるようにした。また、授業を進める中で、「ひよこ」や「あひる」なども同様に確認していった。こうすることで、単元の終わりには、Aさんは、文が提示されると自分から進んで読みはじめることができた。また、登場人物や動詞を読み取り、正しいイラストを選び、場面を表すことができるようになってきた。



○授業実践を通して

支援記録シートを使って振り返りをする中で、Aさんが、単語の内容をどのように理解しているか、どのようなところにつまずいているかを推察しながら、目標の達成につながるように具体的に支援を改善することができた。また、Aさんは、初めはわからないことがあるとあきらめていたが、新しい文が提示されると自分から進んで読みはじめることができた。これは、Aさんの思いや考えを踏まえた支援により、「できる」を積み重ねたことで自信がつき、より主体的に学ぼうとする姿につながったと考えられた。

参考資料

授業実践の中で行われた支援等のまとめ

本年度の授業実践を行うに当たって、様々な支援の工夫が見られた。

「視覚化」や「言語化」，「要素を絞った教材・環境設定」については，音や形，動きなど，子どもが知覚しにくい要素に気付くことができるようにしていることが特徴的であった。子どもたちの気付きから，表現を引き出すことができる支援の工夫として，音楽や図画工作・美術，体育，保健体育で有効であると考えられた。

また，「動作化」や「操作できる教材」については，取り組んでいる子どもの姿から，子どものもっている言葉や数などの概念を把握し，支援に生かすことができた。本年度の実践においては，国語や算数・数学で有効であると考えられた。

【視覚化】



【中学部 音楽科（器楽）】

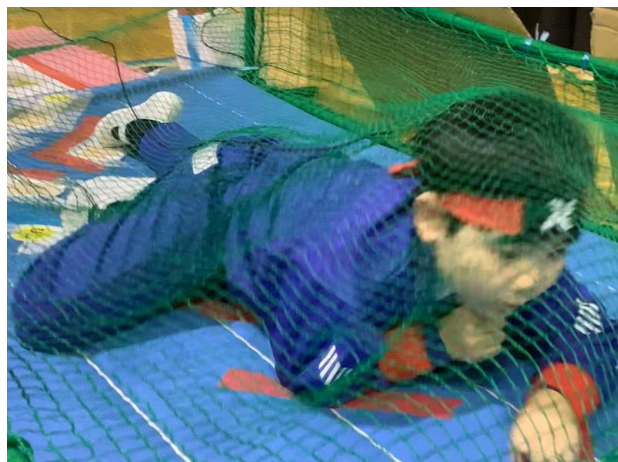
音を波形で示した。また、聴こえた楽器のイラストカードや友達の動きの写真カードを貼ることができるようにした。また曲を繰り返し聴く中で、生徒が聴きとった楽器の音や特徴的なリズムをイラストカードで表すことで音やリズムの違いを捉えることができるようになった。



【高等部 国語科（読むこと）】

模造紙で物語の文章を拡大して示し、登場人物や感情のイラスト、思い付いたキーワードを貼り付け、生徒同士で共有することができるようにした。

そうすることで、言葉の意味を正しく捉えながら、気持ちを込めたり、強弱を付けたりしながら音読をすることができるようになった。



【小学部 体育科（体づくり運動）】

この運動において、マットにイラストやテープを貼って、肘を着く場所を示した。

そうすることで、どのように体を動かすのか捉えやすくなり、這いながら前に進むことができるようになった。



【高等部 保健体育科（器械運動）】

跳び箱に手を着く位置をテープで貼って示したり、タブレット端末で動画を撮影し、振り返ったりすることができるようにした。

そうすることで、自分がどこに手を着いているかを振り返り、修正しながら正しい位置に手を着くことができるようになった。

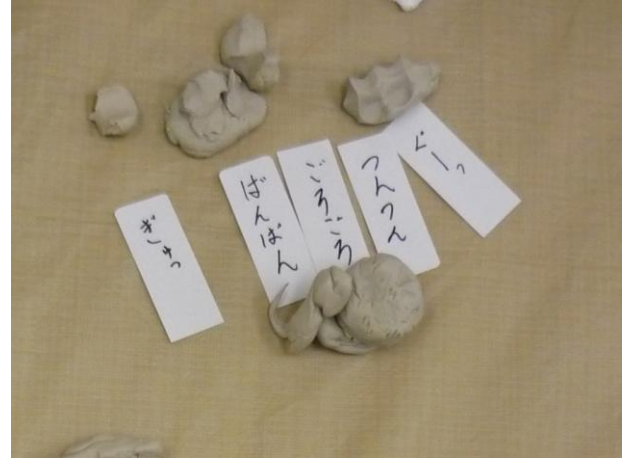
【言語化】



【小学部 図画工作科 (粘土を使った造形遊び)】

粘土の形に着目できるように、「どんな形ですか？」など問いかけをした。

教師とやり取りをする中で、「丸になった」、「ギョーザみたい」など、形に着目できるようになってきた。



【小学部 図画工作科 (粘土を使った造形遊び)】

子どもが粘土を操作している様子を、「ぎゅっ」「ぐーっ」などの言葉で表した。また、表した言葉を短冊にして示した。

そうすることで、短冊を見て、自分から粘土を「ぎゅっ」と言いながら握る姿が見られるようになった。



【高等部 音楽科(身体表現)】

曲の強弱やリズムを視覚的に示すとともに余白に曲を聴いて感じたことを書き込めるようにした。

そうすることで、「はい」と書いた部分で身体を素早く動かして表現する姿が見られるようになった。

【要素を絞った教材・環境】



【小学部 音楽科

（音楽遊び・器楽）】

複数の白い箱に、それぞれコルクや砂などを入れ、箱を振ったり、叩いたりして音に意識を向けられるようにした。

また、教室内の環境を視覚刺激が少なくなるように整えることで、より集中して楽器を鳴らしたり、音を聴いたりできるようにした。



【小学部 図画工作科

（粘土を使った造形遊び）】

枠に六角の網を張った教材を用意し、粘土を押し付けると六角の形が出てくるようにした。

初めは押し付けることを繰り返していたが、徐々に六角に伸びた粘土を重ねる姿が見られるようになった。

【動作化】



【高等部 国語科（読むこと）】

物語『三匹のやぎのがらがらどん』を読んで、動作で表す活動を設定した。

そうすることで、言葉の意味や内容を考えたり、セリフの強弱を考えながら音読することができるようになった。

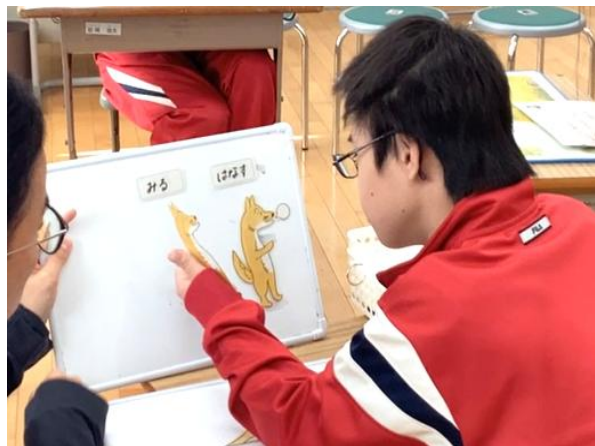


【中学部 音楽科（器楽）】

楽器を鳴らす前に、音を動作で表現する活動を設定した。

音楽を聴いて、感じとった音色やリズムなどを動作で表すことで、鳴らし方を自分から変えることができるようになった。

【操作のできる教材】



【中学部国語科（読むこと）】

物語『きつねのおきやくさま』の文を読み，読み取ったイラストを使って挿絵をつくる活動を設けた。

そうすることで，文中の言葉の意味に合うイラストを選んだり，動かしたりして，場面の様子を捉えることができるようになった。



【小学部 算数科

（数量の基礎・数と計算）】

1つのカップに1本のストローを挿す1対1対応の活動を設けた。

繰り返し取り組む中で，1つのカップに1本のストローを挿すことができるようになってきた。